

イワシクジラ 北西太平洋

Sei Whale, *Balaenoptera borealis*

管理・関係機関

国際捕鯨委員会(IWC)

最近一年間の動き

第58回国際捕鯨委員会で、将来的に本系統の詳細解析を優先課題とすることが合意された。

生物学的特性

- 寿命: 60 歳 (最高年齢)
- 成熟開始年齢: 10 歳(1925年)から7 歳(1960年)
- 出産期・出産場所: 11 月、亜熱帯・温帯の外洋海域
- 食性: 魚類(カタクチイワシ、マイワシ、キュウリエソ、サンマ、マサバ、ハダカイワシ類など)、いか類(スルメイカ、テカギイカなど)、動物プランクトン(オキアミ、カイアシ類)
- 捕食者: シャチ

漁獲の動向

1910年代から年間500頭の捕獲が1955年までほぼ一定して継続したが、1967年から捕獲が急激に伸び、1968年には4,000頭を越える捕獲(日本のみ)をあげた。1968年以後「北太平洋捕鯨規則」によって捕獲割当量が定められるようになり、1970年からIWCの条約付表に北太平洋産鯨類の捕獲枠が明示されるようになった。その後IWCの規制が厳しくなり、1976年から北太平洋全域で捕獲が禁止されている。商業捕鯨以外では国際捕鯨条約第8条に基づく北太平洋鯨類捕獲調査により2004年から100頭を上限に(2002年～2003年は50頭上限)捕獲されている。

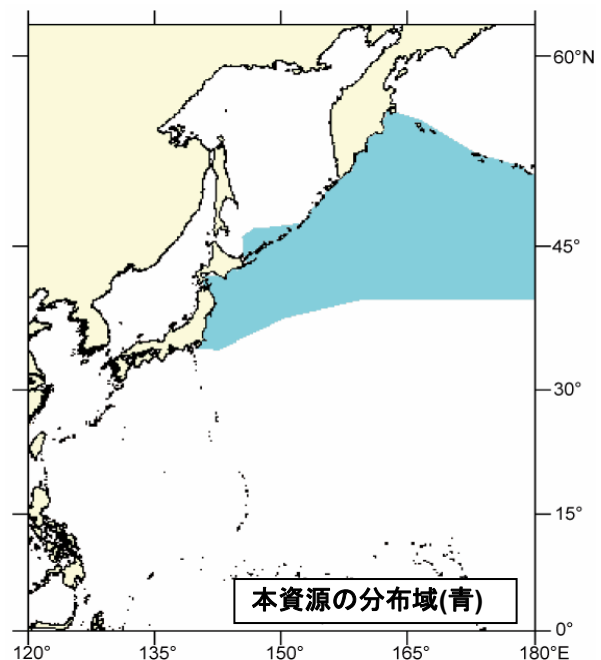


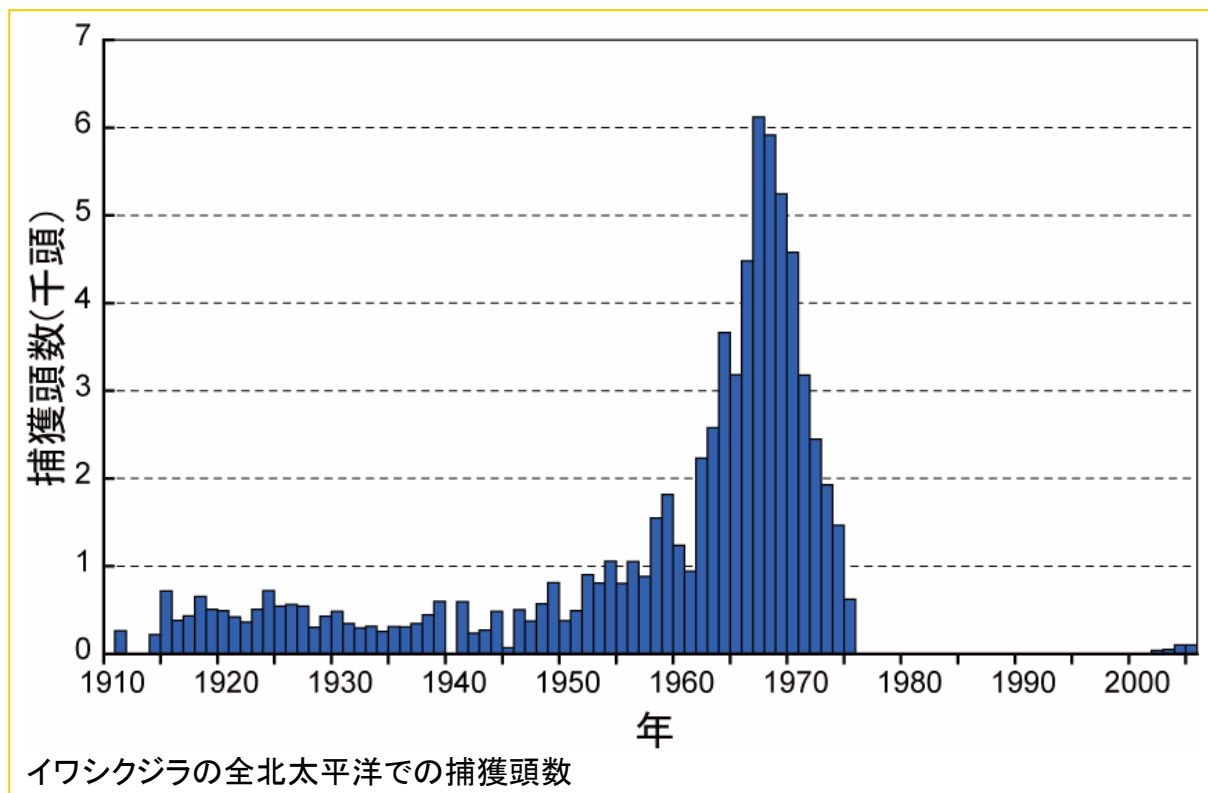
利用・用途

刺身、鯨油など

漁業の特徴

本種の捕獲は、1890年代末に基地式の近代捕鯨によって開始された。その後、1940年には母船式捕鯨が開始され本種も捕獲された。日本では1911年から捕鯨統計が整備されたが、イワシクジラとニタリクジラが分類されず、それが公式に判別されるようになった1954年までは統計上全てイワシクジラとして記録された。北太平洋では日本の他に、旧ソ連、米国並びにカナダが本種の捕獲を行った。





資源状態

IWC では 1975 年の本系群が初めて資源評価されたが、以後、資源評価は行われていない。

1975 年の IWC 資源評価では、初期資源量 4.2 万頭で 1975 年時点の資源量 9 千頭であるとされ、当時の管理方式では MSYL (2.3 万頭) の 40% のため保護資源と分類された。それにより、1976 年度から北太平洋全域で本種の捕獲が禁止され現在に至っている。日本の目視調査の結果では 1980 年代始めから 1990 年代中頃にかけて北西太平洋海域で増加傾向が見られ、資源が回復しつつあると思われる。2002 年と 2003 年の調査捕獲時の目視調査に基づいた資源量推定では、調査海域内で 4,100 頭、さらにこの結果を過去の目視調査結果から非調査海域へ引き延ばし、北西太平洋全体で 6.8 万頭と推定された。

管理方策

IWC では資源状態によらず全ての商業捕獲が休止状態にある。我が国は 2002 年から捕獲調査を実施する一方、本種を対象とした目視調査を実施しており、それらを用いて資源解析を行う必要がある。2006 年の IWC では、本系統の資源解析を将来の優先課題とすることで合意された。

資源管理方策まとめ

- 商業捕鯨モラトリアムで 1987 年捕獲停止
- 2002 年から食性解明を目的とした捕獲調査を実施中
- 引き続き、目視調査で資源の動向を把握

資源評価まとめ

- 1980 年代～1990 年代中頃に資源は増加傾向、回復しつつある。
- 非調査海域も含めた推定資源量は 6.8 万頭

イワシクジラ(北西太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	(おそらく) 高位
資源動向	増加
世界の漁獲量 (最近 5 年)	なし(日本を除く)
我が国の漁獲量 (最近 5 年)	調査捕獲により年間 39～100 頭(2002 年以降)